

フィンランド語の童謡を日本語で理解する指導についての試み

—保育環境論での替え歌作りの実践より—

横井一之*・松本亜香里**

はじめに

教育学部保育専攻の学生にとって、3年生の秋学期のスタートはやや混乱をする時期である。昨年2018年度を例にすると、9月3日～10月16日まで一部の学生がグループ単位で保育実習Ⅰ（施設）、いわゆる施設実習に出かけた。秋学期の授業は、実習期間と重なる9月14日から始まるため、保育環境論の授業は9月14日～10月15日の5回、変則の対応が必要となった。学生により0～2回の補講を行う必要がある。

学生の立場に立つと、授業開始さうさう1～2回の授業を受けられないこととなり、落ち着かない5週間である。そこで、筆者は授業の趣旨に沿った特別なプログラムを実施した。

歌詞と楽譜、本の右側には電子装置が付いており、ボタンを押すとメロディーを演奏する童謡集をヘルシンキの書店で購入した。この童謡集の歌詞、楽譜を利用して学生がフィンランドの幼児文化、通常の日本とは異なる保育環境を理解する授業を実践した。本稿では、その学習の様子をまとめた。

なお、第1章は横井、第2章、第4章は両名、第3章は松本が担当した。

1. 保育環境論とは

保育環境論は、保育士養成科目のうち告示別表2に示された選択科目の1つである。ただし、以下に示すように幼稚園教育要領でも「環境を通した保育」や「環境の構成」が唱えられており、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は幼稚園教育要領の方針を踏襲している。各領域の指導においては「環境を通した保育」や「環境の構成」は大前提として取り扱われている。例えば、領域「健康」では「子どもの心や体」という環境を通して、領域「言葉」では子どもを取り巻く「言葉環境」を通して指導することが大前提となっている。そして、子どもを取り巻く心身、言葉、人、音や目に入るものそしてその他の環境をどう捉えたらよいかは、保育所保育指針第1章 総則、1 保育所保育における基本原則、(4) 保育の環境に示してある。そして、保育所保育指針解説にはさらに詳しく記述してある。

(1) 幼稚園教育要領における保育環境の考え方

学校教育法第22条には表1のように幼稚園教育の目標が示されている。その条文の中に「適当な『環境』を与えて、その心身の発達を助長する」とある。このことは、表2にあるように、「幼稚園教育は環境を通して行うもの」とほぼ同義である。適当な環境を与えるために「環境を構成する」のである。

* 東海学園大学教育学部、** ユマニテク短期大学・東海学園大学非常勤講師

表1 学校教育法の中の幼稚園の環境について

学校教育法 第三章 幼稚園 第22条 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。
--

表2 幼稚園教育要領第1章 総則 第1 幼稚園教育の基本より

第1 幼稚園教育の基本 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法の規定する目的及び目標を達成するために、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。 (中略) その際、教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。(以下略)
--

(2) 保育所保育指針における保育環境の考え方

保育の環境については、表3のように保育所保育指針第1章1(4)に記述されている。保育環境には人、物、自然や社会の事象がある。これらの環境を構成し、保育しなければならないと示されている。そして、アからエまでの4項目の留意事項が記述されている。この表3に示したことを教育するのが保育環境論の目標だといえる。

表3 保育所保育指針の中の「保育の環境」について

第1章 総則 1 保育所保育に関する基本原則 (4) 保育の環境 保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などのその環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、次の事項に留意しつつ、計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。 ア 子ども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるよう配慮すること。 イ 子どもの活動が豊かに展開されるよう、保育所の設備や環境を整え、保育所の保健的環境や安全の確保などに努めること。 ウ 保育室は、温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 エ 子どもが人と関わる力を育てていくため、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。

(3) 具体的な授業展開について

授業は表4のシラバスに則って行う予定だったが、1～5回までの授業において再編成を行った。5回の授業で3回分の特別プログラムを行い、その期間に各学生おおむね2回欠席をするので、2回分補講を行っ

た。実際には、愛知県の保育実習の調整会出席のために休講したので、計3回の補講を設けた。実習参加期間の都合で補講を含め17回の講義のうち少ないもので15回、多いもので17回の受講となった。ただし、自分は15回で十分だと申し出た学生については、規定以上の回数の受講を強制しなかった。しかし、多くの学生が追加の授業にすべて参加したと記憶している。単に授業が誰にでも理解できる内容で、学生にとって楽しく有意義な授業だったからだと自負している。シラバスに家庭学習の課題が明記してあるので、最初の5回についてはレポートを10題提出することで目標に到達したと判断した。本稿で取り上げたフィンランドの童謡については、補講2回を含め5回の授業のうち、秋学期最初の3回の授業の一部を用いて指導した。

表4 保育環境論のシラバスより

	事項
授業概要	我々が生活している環境は、これまでの著しい科学技術等の進歩により、経済的にも物質的にも非常に豊かになった。しかし、現代社会ではこの『豊かさ』により、社会構造をはじめ、その基本となる家庭環境などが大きく変化するとともに、そこで生活する大人は勿論のこと、幼い子どもたちにまで大きな影響を及ぼし、様々な問題が露出してきている。そこで、現代の子どもの健やかな心身の発育・発達、そして『生きる力の基礎を培う』という視点から、子どもを取り巻く様々な環境において、特に注目すべき事象や問題点を明らかにしながら理解を深める。
到達目標	激変する現代社会の中で、幼い子どもに影響を及ぼしている課題を明らかにし、説明することができる。 それら課題が、幼い子どもにどのような影響を及ぼしているのか、論理的に説明することができる。 課題に対し、家庭と保育現場が連携しながら、どのように取り組むべきか自分の考えを発言や文章によって示すことができる。
授業計画	〈1 週〉オリエンテーション I. 保育の基盤となる「人的環境」 (1) 人間の子育ての特徴 家庭学習 (人間の子育ての特徴について調べる (90分)、人間の子育ての特徴について整理・まとめ (90分)) 〈2 週〉(2) 子育てという営み 家庭学習 (子育てについて調べる (90分)、子育てについて整理・まとめ (90分)) 〈3 週〉(3) 哺乳動物の親と子の絆 家庭学習 (哺乳類の親子の絆について調べる (90分)、哺乳類の親子の絆について整理・まとめ (90分)) 〈4 週〉(4) 基本的信頼感 家庭学習 (エリクソンの基本的信頼感について調べる (90分)、基本的信頼感について整理・まとめ (90分)) 〈5 週〉II. 子どもを取り巻く環境の変化 (1) 少子化の実態とその要因 家庭学習 (少子化について調べる (90分)、少子化について整理・まとめ (90分))

2. フィンランドの童謡の替え歌を作る活動について

(1) 指導日時 2018年9月21日、28日、10月5日各2限の一部

(2) 対象 教育学部教育学科保育専攻3年生57名

(3) 指導内容

①フィンランドの童謡について

学生に紹介した童謡は、以下の表5のように50曲収録されたフィンランドの童謡集の本で、傍らに装置が付いており、スイッチを押すとそのメロディーが電子音で流れる。

表5 フィンランドの童謡 Soiva laulukirja (「心温まる歌集」という意味)

選者について	Soili Perkiö (1958年3月28日、ヘルシンキ生まれ) シベリウスアカデミーの音楽教育におけるフィンランドの作曲家および講師です。Perkiöは、子供のアルバム「Baby's Scale」(1995年)を始めとして、いくつかのアルバムで彼の共同編集者であるHannele Huovの詩を構成しています。2009年には、「子ども文化賞」を受賞しました。2012年、Perkiöは初期の音楽教師協会、Liisa Kallio、Pikku Papuそして2014年にHannele Huovと一緒に「Muumiperheen lauluretki」というアルバムの神権を受賞しました。		
学生番号	曲番	曲名	和訳
52	1	YKSI PIENI ELEFANTTI	小さな仔象
3	2	UKKO NOOA	ノアおじさん
35	3	SATU MENI SAUNAN	サトウちゃんサウナに行きました
54	4	JÄNIS ISTUI MAASSA	ウサギが地面に座って
44	5	PIIRI PIENI PYÖRII	渦巻き回路クルクル
38	6	JAAKKO KULTA	さあ、お寝坊さんが起きる
41	7	KAPTEENI KATSOI HORISONTTIHIN	船長さんは水平線を見る
47	8	PRINSESSA RUUSUNEN	眠れる森の美女
49	9	HEPOKATTI	キリギリス
20	10	ORAVAN PESÄ	リスのおうち
5	11	MIRRI SAIRASTAA	子猫の病気
9	12	HUOMENTA SORMET	あすの指
29	13	PIENI NOKIPOIKA	小さな煤(すす)少年
?	14	SAUNAVIHDAT	
34	15	KYLPYLAULU	風呂のうた
30	16	RATI RITI RALLA	ラッチ リッチ ライア
16	17	LUMIUKOT	雪だるま
?	18	PAIMENEN SYYSLAULU	
10	19	KEVÄISET METSÄT	春の森
?	20	KAKSI ON PAATISSA SOUTAJAA	
28	21	METSÄMÖKKI	森の小屋
1	22	BINGO	ビンゴ
57	23	JOS SUL LYSTI ON	貴方は満足している
24	24	KÄRPÄNEN ISTUI POLVELLA	膝(ひざ)の上の蠅(ハエ)

36	25	A RAM SAM SAM	私は一人です
45	25	A RAM SAM SAM	ラム サム サム
37	26	INTIAANIEN LAULU	インディアンの歌
17	27	VÄRIARVOITUKSIA	カラーパズル
11	28	KÄVELIN KERRAN METSÄNREUNAA	森の散歩
53	29	LEIPURI HIIVA	パン酵母
25	30	NYT SAAVAT PEUKALOT HYPPIÄ	今、親指がジャンプします
39	30	NYT SAAVAT PEUKALOT HYPPIÄ	親指がジャンプした
6	31	OLI SYNKEÄ YÖ	夜、暗闇がありました
46	32	PII PII, PIKKUINEN LINTU	ピッピ、ピッピ かわいい小鳥
8	33	KOLME VARISTA	3匹のカラス
23	34	PIENET SAMMAKOT	小さなカエル
27	35	PIKKU KOIRA LAULAA	犬が歌うよワンワン
32	35	PIKKU KOIRA LAULAA	小さな犬が歌う
51	36	MINÄ OLEN KISSA	私は猫です
7	37	VIISI PIENTÄ ANKKA	5匹の子アヒル
19	38	HÄMÄ-HÄMÄHÄKKI	これはクモです
42	39	PIIPPOLAN VAARI	おじいちゃんの牧場
14	40	KIRPPU JA HÄRKÄ	ノミと牛
40	40	KIRPPU JA HÄRKÄ	ノミと牛
12	41	HURJA HAI	獐猛なサメ
22	42	METROLLA MUMMOLAAN	祖母へのメトロ
31	43	RYÖRÄT NE RYÖRIVÄT YMPÄRI	タイヤがぐるぐる回る
50	44	JUNAN LÄHTÖ	列車は出発します
43	45	KÖRÖ-KÖRÖ KIRKKOON	猫と馬の歌
48	45	KÖRÖ-KÖRÖ KIRKKOON	
26	46	LAIVA	船
55	47	PIKKU-MATIN AUTO	小さな車がありました
21	48	HEVONEN SE HEINIÄ ROUSKUTTAA	まぬけな馬
?	49	TUU, TUU, TUPAKKARULLA	
4	50	PIENI METSÄLINTU	小さな森の鳥
33	50	PIENI METSÄLINTU	森の小さな鳥

全曲で50曲あり、学生が57名いるが一度も出席しなかった学生が1名（仮番号56）おり、学生が扱う曲のうち25, 30, 35, 40, 45, 50番の曲は2名の学生に担当させた。ところが、14, 18, 20, 49番の担当となった学生がレポート未提出で替え歌が現在のところ完成していない。結局、この課題に取り組んだ学生が52名、50曲のうち2名の学生に取り組んだ課題が6曲、披露されなかった曲が4曲ということで、発表会では50曲+6曲-4曲=52曲が披露された。

②フィンランド語の日本語への翻訳について（歌詞の整理）

表6のように、パソコンの翻訳ソフトの左側にフィンランド語の歌詞を入力すると、右側の窓に日本語が表示される。これを繰り返して、歌詞が1番だけの曲は1番の分だけ、3番まであるものは3番までの歌詞をまとめた。なお、翻訳ソフトは各学生が使用しているものを各自利用した。特に、ソフトは指定しなかった。

表6 46番『Laiva (船)』の翻訳例

フィンランド語	日本語
Lai-va, lai-va, minnekä lai-va me-nee?	船、船、私たちは何をしましたか？

③メロディーに合わせて、日本語の歌詞を載せる

表7 『Bingo (ビンゴ)』(表5の22番の曲)の歌詞(譜面の下)の日本語訳

ビンゴ (この曲は1番のみ)
黒い猫が窓辺に座る 黒い猫が窓辺に座る 黒い猫が窓辺に座る
猫の名前はビンゴ BINGO BINGO BINGO 猫の名前はビンゴ

④童謡集の電子音を伴奏に、自分の歌を発表

表8に示した KÄRPÄNEN ISTUI POLVELLA は「ハエさんは膝に座った」だが、日本でもよく聞く「Ach Du Lieber Augustin (かわいいオーガスチン)」のメロディーにのせて、「ハエさんはヒザザ、ヒザザ、ヒザザ、ハエさんはヒザザ、膝に座った」と担当の学生は歌い上げた。

表8 KÄRPÄNEN ISTUI POLVELLA (ハエさんは膝に座った)の歌詞

1. Kärpänen istui polvella.	1. 膝の上に座ったハエ。
Kärpänen istui polvella.	そのハエは膝の上に座った。
2. Kärpänen istui korvassa...	2. ハエは耳の中に座った...
3. Kärpänen istui peukulla...	3. ハエは親指に座った...
4. Kärpänen istui varpaalla...	4. ハエはつま先に座った...
Lopuksi:	最後に:
Nyt Kärpänen lensi ikkunasta ulos!	すっとハエは窓から飛び出した!

⑤学生間で投票し、優秀作を決め、発表

投票結果発表は2019年年明けの最初の授業で行った。ただし、優勝賞品は個人には出さずに、みんなで雪だるまのキャンディを食べた。以下の表9が優勝作品、17番『雪だるま LUMIUKOT』の替え歌の歌詞で、譜表10が譜面である。

表9 『LUMIUKOT 雪だるま』(民謡)の替え歌歌詞

ゆきだるま		KANSANLAULU
1. Lumiukot, lumiukot ketjussa kulkee, nysäpiipun, nysäpiipun suuhunsa sulkee.		
Olalle he taputtavat ystävää ja veikkaa, hangella heittelevät kupperiskeikkaa.		
学生直訳	ゆきだるま、ゆきだるま チェーンが走る、お酒の樽、お酒の樽 口を閉じます。	
	肩の上に彼らの友人を歓迎して予測する、雪を投げる金のカップのショー。	
2. Lumiukko, lumiukko pyöreä kuin pulla, hauska on sun kerallasi tanssimahan tulla.		
Kädessä on keppi ja nappina on hilli, ketterä on pyörimään kuin automobiili.		
学生直訳	ゆきだるま、ゆきだるま 丸いパンのよう、楽しく太陽は 一緒にダンスする。	
	手にはスティックがあり、ボタンは石炭、自動車のような機敏な動き。	

譜表10 『LUMIUKOT 雪だるま』(民謡)の替え歌譜面

LUMIUKOT (ゆきだるま)

KANSANLAULU



1. Lu-mi- u- kot, lu- mi- u- kot ket- jus- sa kul- kee,
ゆ き だ る ま ゆ き だ る ま か ざ り を つ け て

ny- sa- pii- pun, ny- sa- pii- pun suu- hun- sa sul- kee.
お お き な た ー る を あ た ま に の せ る

O- lai- le he ta- put- ta- vat ys- ta- vaa ja veik- kaa,
ゆ き だ る ま は と も だ ち と な か よ く あ そ ぶ

han- gel- la heit- te- le- vat kup- pe- ris- keik- kaa.
ゆ き を な げ あ っ て ゆ き が っ せ ん だ

3. 外国の童謡を日本語の替え歌にする場合の留意点と意義

本研究で取り上げた活動では、原語によるニュアンスを読み取って訳すことに加え、メロディーからの印象を崩さないようにすることが必要となる。また、同じ言語を繰り返す場合、同じメロディーなのか少し変化を加えるのか、対比する変化を加えるのかによっても、訳す時の言葉の選び方が異なってくる。

本活動では、直訳のまま歌詞を貼り付ける学生と、直訳してからメロディーの下に言葉を替えて貼り付ける学生とに分かれている。例えば、表9と譜表10の曲番17『LUMIUKOT (雪だるま)』では、直訳だと「ゆきだるま、ゆきだるま チェーンが走る、お酒の樽、お酒の樽 口を閉じます。肩の上に彼らの友人を歓迎して予測する、雪を投げる金のカップのショー。」だが、メロディーに合わせて替え歌を作ると「ゆきだるま、ゆきだるま、飾りを付けて、大きな樽を頭にのせる。ゆきだるまは友だちと仲良く遊ぶ。雪を投げ合って雪合戦だ。」となっている。童謡を単に訳すことを目的としたのではなく、替え歌とした授業者の意図を汲み取って作られていることが分かる。優秀作にこの学生が選ばれたのは、このような点が理由であろう。

直訳のままだと言葉を音符の数に合わせて区切るだけの作業となるが、言葉をメロディーに合わせて選ぶことにより、音からのイメージと言葉のニュアンスを考えて、領域「表現」にも通じる活動となる。さらに、全員で発表を行うことにより様々な曲に触れ、曲の雰囲気と言葉からのイメージを同時に感じ、考える機会となる。この活動により、メロディーと歌詞を味わうことに意識が向くことは、将来保育者や教育者となっていく学生にとっては意義深い活動といえよう。

本研究で取り上げた童謡集の特徴として、マザーグースのように韻を踏んでいることは、本活動にお

いて看過できない。この韻を楽しみ、日本語に反映できるようになると、幼児向けの言葉を選ぶ勉強になり、語彙力の促進にもつながることが期待される。本研究で取り上げた授業は取り扱う内容が広域になるため困難と予想されるが、領域「表現」や「言葉」なども絡めて活動することが望ましいと考える。こうした活動により、5領域が単独であるものではなく、それぞれの領域が相互に関連をもち、混ざり合ったところに保育があるということへの意識付けへもつながろう。

4. 考察

欠席学生のパターンは表11のように、2回欠席する学生のパターンが4パターン、1回欠席する学生のパターンが5パターン、1回も欠席しない学生のパターンが1パターンと、全部で10パターンある。教師がどの学生がどの授業に出席していたかを完全に把握するのは難しく、その対応も煩雑になる。この時期に学生主体の授業を展開できないかと思案し、今回のようにフィンランドの童謡集の歌詞、楽譜を利用して学生が他国の幼児文化、通常の日とは異なる保育環境を理解する授業を試行した。本稿ではその様子をまとめた。

表11 秋学期初め5回の出席パターン

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
例1	欠席	欠席	出席	出席	出席
例2	出席	欠席	欠席	出席	出席
例3	出席	出席	欠席	欠席	出席
例4	出席	出席	出席	欠席	欠席
例5	欠席	出席	出席	出席	出席
例6	出席	欠席	出席	出席	出席
例7	出席	出席	欠席	出席	出席
例8	出席	出席	出席	欠席	出席
例9	出席	出席	出席	出席	欠席
例10	出席	出席	出席	出席	出席

秋学期始まりの5回の授業で、毎回週替わりのフィンランド童謡の楽譜を示し、スマホでその童謡の動画が見つからないかを確かめるようにした。メロディーを奏するのは横井の購入した童謡集本体のみなので、各学生がメロディーを確かめるのはインターネットの動画の方が確実に考えたからである。正確に数えなかったが、50曲のうち30曲ぐらいは動画を得ることができたと覚えている。動画を得ることができない場合は、横井の購入した童謡集本体から直接メロディーを聞く必要がある。

メロディーが理解できると、次は歌詞の意味の理解となる。インターネットの翻訳ソフト（無料ソフト）を利用して、日本語に翻訳した。翻訳ソフトを使うとき、アルファベットだと入力も簡単で便利だと感じる。中国語やハングルを直接入力することは、日本語しか知らない者にとってかなり難しい作業である。ベトナム語ではある時期に漢字をやめ、アルファベット表記となったそうであるが、翻訳ソフトの事だけを考えるとよい選択だったと思う。

3章に示したように、本論で取り上げたフィンランドの童謡の日本語の替え歌作りは次の3点の教育的効果があったといえる。

- (1) 異国の童謡の分析を通しての異文化理解。
- (2) 日本とフィンランド両国の児童文化を通しての幼児のことは、音楽の理解。
- (3) 新しいものであったときに、主体的にICTを利用し分析し、学友と話し合いながら研究を続け、上記(1)と(2)について深く学ぶ。

学生と取り組んだフィンランド語は、日本ではあまり知られていないが、英語で用いるアルファベットに少し新しい記号が加わった程度の未知の言葉で、学生へは適度な刺激をあたえるものだった。フィンランドは福祉国家で、保育科学生にはよく知れ渡っており、そのことも学生が積極的に取り組める要因だったと思われる。もし機会があれば、別の言語の童謡集についても同じように取り組めたらよいと考えている。

<参考・引用文献>

Soili Perkiö (2013) 『Soiva Laulukirja』 TAMMI 社

高御堂愛子他 (2017) 『保育者をめざす楽しい音楽表現』 圭文社

厚生労働省 (2018) 『保育所保育指針解説』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

文部科学省 (2018) 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館



図1 Soiva laulukirja 「心温まる歌集」